

Analysis of Japanese Articles about Suicides Involving Charcoal Burning or Hydrogen Sulfide Gas

鍋島, 賢大

<https://doi.org/10.15017/1931778>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : CC-BY 4.0



氏 名： 鍋島 賢大

論 文 名： Analysis of Japanese Articles about Suicides Involving Charcoal Burning or Hydrogen Sulfide Gas

(わが国における練炭および硫化水素を用いた 新聞自殺報道記事に関する研究)

区 分： 甲

論 文 内 容 の 要 旨

メディアによる特定の自殺報道がその後に模倣自殺を引き起こすことはよく知られている。わが国では、過去 20 年間に 2 種類の手段による自殺の流行とメディアによる過熱報道が起こった。しかしながら、自殺報道ガイドラインの遵守という視点からのメディアの自殺報道の質の評価に関する研究は今日まで行われていない。そこで、本研究では、2003 年 2 月 11 日から 2010 年 3 月 13 日までの我が国の練炭及び硫化水素を用いた自殺に関する新聞記事 (n=4007) を分析した。対象記事は自殺報道ガイドラインの遵守度合いで評価した。ガイドラインからの逸脱の程度を数値化した違反度数 (violation score) 点数の平均は、記事全体で 3.06(±0.7)、練炭自殺報道記事で 3.2(±0.8)、硫化水素自殺報道記事で 2.9(±0.7)であった ($p < 0.001$)。自殺報道ガイドラインで推奨される項目について、自殺手段を記載しないこと、自殺後の状態を記載することの 2 項目を除き、遵守度は改善していた。メディアの自殺報道による模倣自殺を防ぐためには、特に、自殺手段を記載しないこと、自殺後の状態を記載することが重要であると思われる。